



ほうさ 第10号

1982年4月

名古屋市蓬左文庫

Nagoyashi Hōsabunko

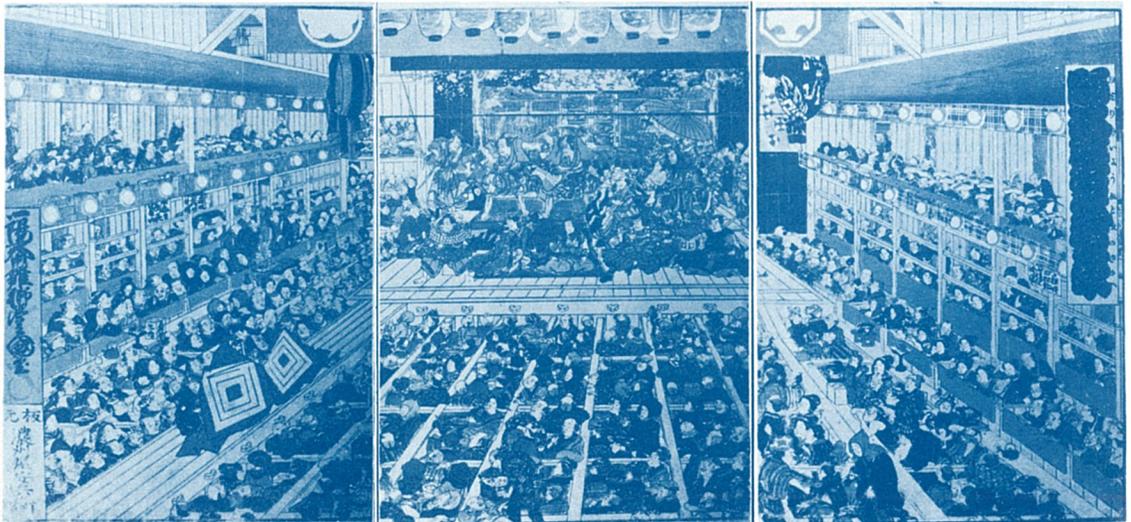
展 示 風 俗 展

尾崎コレクション 芝居絵展

4.6(火)~5.23(日)

歌舞伎は、17世紀初頭に出雲阿国が京都で演じた念仏踊にその端を発し、江戸時代町人の活力を反映するかのように進化した代表的な伝統芸能のひとつである。

阿国の創始した「女かぶき」（「阿国かぶき」「かぶきおどり」）は、風紀上の弊害をおそれる幕府によって寛永6年（1629）に禁止され、かわって「若衆歌舞伎」が脚光をあびたが、これにも承応元年（1652）に、同様の理由で禁令が発せられた。ここに至って歌舞伎は道を閉ざされるわけだが、関係



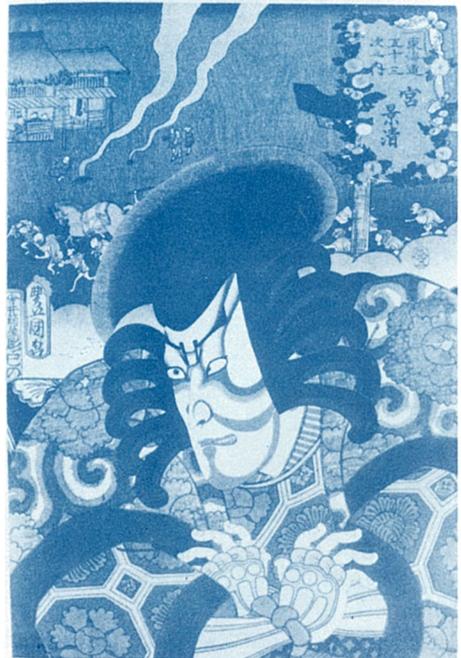
一陽斎豊国画 おどりけいようゑとゑのさかえ

者による熱心な再開許可嘆願が効を奏し、翌年に「再御免」されて再生した。これには、若衆歌舞伎は禁じ、物まね狂言づくしに徹すること、という条件が付せられたが、物まねは写実的な演技を意味しているから、従来の踊を主体とした歌舞伎は変貌を余儀なくされ、劇としての第一歩を踏み出すこととなった。「野郎歌舞伎」といわれるのがこれで、歌舞伎独特のみかた女方芸術発祥の基ともなるわけだが、幕府の禁令が、かえって歌舞伎を演劇として高めるきっかけを作っているのは興味深いことといえる。

その後、歌舞伎は、演技の熟達、舞台・大道具等の整備（花道の創始、引き幕の発明等）、脚本の進歩などによって、当時の世相を巧みにとり入れながら演劇としての飛躍的な進歩をとげ、民衆の間に深く浸透し、総合芸能として開花してゆくのであるが、歌舞伎の中で大きな比重を占めているのは俳優であり、数多の人気役者の輩出は、当時の庶民を大いに湧かせた。彼らの人気は、舞台の上だけにとどまらず、当時の風俗にも大きな影響を与えている。たとえば、「市松模様」「芝翫縞」「三升つなぎ」など、歌舞伎模様とよばれる文様は、人気役者の着用した衣装をもとにして流行したものであるし、数多くの芝居絵や役者絵が、遊女の絵と並んで、広く愛好されたことは、すでによく知られている。社会的には低い身分であった歌舞伎役者たちが、江戸庶民にとってあこがれの的であったことがうかがえる。

舞楽や能楽が、宮廷貴族や武家貴族の社会で育ってきたのに対し、歌舞伎は民間に生れ育ってきた芸能である。一般に、衰退の道をたどっている伝統芸能の中であって、今日もなお、根強い人気を失わない原因のひとつが、ここにもあると思われる。

今回の展示は、その歌舞伎を、当時流行した浮世絵によってみてゆこうとするものである。出陳した作品は、歌舞伎の大成爛熟時代ともいえる江戸後期から、江戸時代の伝統を守りながらも新風をとりこんで変貌してゆく明治期のもの60種である。芝居の名場面を描いた「芝居絵」、人気役者のプロマイドともいふべき「役者絵」、それに、人気役者の死を悼んで作られた「死絵」を加えていずれも尾崎久弥氏のコレクションから展示した。芝居絵は、その当時上演されたものから取材していると思われるが、参考のため、わかるものについては初演の年代を付した。



豊国画 宮 景清

「尾崎コレクション 芝居絵展」出品目録

I. 芝居絵

1. 〔国性爺合戦〕 五渡亭国貞画
〔正徳5年(1715)初演〕 1枚
2. 〔信州川中島合戦〕 国貞画
〔享保6年(1721)初演〕 2枚
3. 〔菅原伝授手習鑑〕 五渡亭国貞画
〔延享3年(1746)初演〕 3枚
4. 忠臣蔵 大序 3、4、7、10段目、夜討
広重画〔寛延元年(1748)初演〕 6枚
5. 仮名手本忠臣蔵 大序 2、5、11段目
一勇齋国芳画〔寛延元年(1748)初演〕 4枚
6. 仮名手本忠臣蔵 大序 2～6、8～10段目
香朝楼国貞画〔寛延元年(1748)初演〕 9枚
7. 〔双蝶々曲輪日記〕 豊国画
〔寛延2年(1749)初演〕 2枚
8. 〔本朝廿四孝〕 豊国画
〔明和3年(1766)初演〕 2枚
9. 〔妹背山婦女庭訓〕 豊国画
〔明和8年(1771)初演〕 3枚
10. 宮 景清〔出世景清〕 豊国画
〔安永7年(1778)初演〕 1枚
11. 恋合 端唄づくし お染・久松〔新版歌祭文〕
豊国画〔安永9年(1780)初演〕 1枚
12. 再板 伽羅先代萩御殿之図 豊国画
〔天明5年(1785)初演〕 3枚
13. 〔幡随長兵衛精進組板〕 豊国画
〔享和3年(1803)初演〕 2枚
14. 〔敵討天下茶屋聚〕 豊国画
〔文化13年(1816)初演〕 3枚
15. 〔鞆猿〕 豊国画〔天保9年(1838)初演〕 2枚
16. 〔児雷也豪傑譚〕 豊国画
〔嘉永5年(1852)初演〕 3枚
17. 女夫同士意裏表 豊原国周 明治10年刊 3枚
18. 鏡山錦栴葉 (新富座十月狂言)
梅堂国政画 明治12年刊 3枚
19. 神霊矢口ノ渡 豊原国周画 明治16年刊
〔明和7年(1770)刊〕 3枚
20. 天神記車引〔菅原伝授手習鑑〕 香朝楼国貞
画 明治22年刊〔延享3年(1746)初演〕 3枚
21. 新歌舞伎十八番文覚勸進帳 豊原国周画
明治22年刊 3枚
22. 仮名手本忠臣蔵 3段目 香朝楼国貞画
明治22年刊 3枚
23. 御隠殿表町之場 (新富座新狂言)
香朝楼画 明治23年刊 3枚
24. 博多柳町奥田屋の場〔博多小女郎波枕〕
香朝楼画 明治25年刊〔享保3年(1718)
初演〕 3枚
25. 曾我会稽山 (歌舞伎座新狂言)
香朝楼画 明治26年刊 3枚

26. 重盛諫言の場 小国政画 明治29年刊 3枚
27. 浜真砂蒔絵高嶋 (明治座新狂言)
香朝楼画 明治30年刊 3枚
28. 椿説弓張月 (歌舞伎座) 豊原国周画
明治30年刊 3枚
29. 踊形容楽屋之図 豊国画 3枚
30. おどりけいようゑとゑのさかへ
一陽齋豊国画 3枚

II. 役者絵

31. 市川団十郎 五渡亭国貞画 1枚
32. 市川海老蔵 香蝶楼国貞画 1枚
33. 見立忠臣蔵 市川海老蔵・中山文五郎
豊国画 1枚
34. 見立忠臣蔵 坂東三津五郎・嵐 冠十郎
豊国画 1枚
35. 瀬川菊之丞 国貞画 1枚
36. 瀬川菊之丞 五渡亭国貞画 1枚
37. 三芝居見立対面 瀬川菊之丞
香蝶楼国貞画 1枚
38. 中村芝翫 豊国画 1枚
39. 中村芝翫 国貞画 1枚
40. 〔襲名披露〕 中村芝翫・児雀
一陽齋豊国画 1枚
41. 中村歌右衛門 国貞画 1枚
42. 〔五世松本幸四郎〕 錦升 豊国画 1枚
43. 当世五人男 沢村訥升 香蝶楼国貞画 1枚
44. 江戸八景 金竜山暮雪 沢村訥升・沢村
田之助 国周画 1枚
45. 見立五節句 五月 市村家橋 国周画 1枚
46. 三耕源之助 五渡亭国貞画 1枚
47. 市川団蔵・坂東三津五郎 五渡亭国貞画 2枚
48. 五代目 坂東三津五郎 豊国画 1枚
49. 坂東三津五郎 豊国画 1枚
50. 坂東秀朝 五亀亭貞房画 1枚
51. 尾上菊五郎〔三世〕 豊国画 1枚
52. 尾上梅幸 五渡亭国貞画 1枚

III. 死 絵

53. 三世沢村宗十郎 豊国画 文化9年 1枚
54. 四世岩井半四郎 一勇齋国芳画
天保7年 1枚
55. 七世市川団十郎 豊国画 安政6年 2枚
56. 八世市川団十郎 嘉永7年 1枚
57. 四世助高屋高助 梅堂国政画 明治19年 1枚
58. 九世市川団十郎 明治36年 1枚
59. 五世尾上菊五郎 豊齋画 明治36年 1枚
60. 初世市川左团次 明治37年 2枚

(期間中、展示替をします。)

蓬左文庫の蔵書印

その8. 「尾張国校蔵板」
付・「名古屋藩学校之印」
織 茂 三 郎

紹介に及ぶ次第である。この印は直径6cm、円形の朱印で、明倫堂版といえども、用例はごく一部に限られ、判明しているのは、本文庫のうちでも、『帝範』と『臣軌』の2種にすぎない。

なお、明倫堂は明治4年(1871)7月、廃藩置県の直後、廃校となり、代わりに「名古屋藩学校」が開設されたが、およそ1年後には「名古屋県洋学校」続いて「愛知県洋学校」などと改称、一般には「名古屋洋学校」で通っている。文明開化の時代に沿って、英・仏両国から教師を招き、新しい洋学を教えた。さきに上田伸敏や伊藤圭介らが建てた「尾張洋学館」では、もっぱら蘭学を授けたが、明治ともなれば、英・仏さらには独の三ヶ国語にその座をゆずることになる。「愛知県洋学校」は、その後も「愛知英語学校」などと頻繁に名を改めた

が、これが「愛知一中」(現旭丘高等学校)の前身である。以上の通り、「名古屋藩学校」と称した期間はきわめて短いため、この印記もまた珍しい部類に属する。寸法はたて7.1cm、よこ7.9cmの大型印である。この印記をもつ書籍は、まだ本文庫では発見されていないが、参考の意味で付載した。

(蓬左文庫調査研究員)



「尾張国校蔵板」印



「名古屋藩学校之印」

閔覽庫より

散逸した駿河御讓本について

—国立国会図書館での調査結果—

徳川家康の施政において、文教事業に重きが置かれていたことはよく知られているが、彼自身も学を好み、駿府に隠居後は文庫を設けて(駿河文庫)、約一万冊の書籍を集めている。これらの蔵書は、彼の没後(元和2年<1616>)、遺命により主として尾州(義直)、紀州(頼宣)、水戸(頼房)の三家に分譲された(駿河御讓本)。そのほか、若干は江戸城へも送られ、紅葉山文庫を経て、現在は宮内庁と内閣文庫(国立公文書館)に伝わっている。大部分は三家に譲られたわけだが、紀州家(南葵文庫)の分は明治の頃ほとんど散逸、水戸家(彰考館文庫)分

も現存しているというものの、他書とまぎれて識別困難であるという。この中にあって、尾州家(蓬左文庫)分だけは、元和当時の原目録により全貌が明らかにされ、その約3分の2(約260部、2,000冊)が蓬左文庫に伝えられている。残りの3分の1は、主として明治5年の売り払いにより散逸したものであるが、それ以前に行方不明となっていたものもすこしはある。この散逸本の行方については以前から調査を重ねており、数十種について、その所在が確認されている。すなわち、国立国会図書館を筆頭に、静岡県立葵文庫、京都大学、東北大学、梅沢記念館、

岩瀬文庫、名古屋市博物館、それに神田喜一郎氏など個人の所蔵となっているものもある。この内、国会図書館は約20種を取蔵しており、最近これを調査する機会を得たので紹介しようと思う。

ちなみに、尾州家分「駿河御讓本」には「御本」印（尾張藩主初代義直の蔵書印）があり、また明治5年払い出し分には「弘」印（朱・墨兩種）が押されているので、これと「駿河御讓本目録」等、文庫

の目録類とが、散逸本を識別する参考となる。

さて、国会図書館における調査は、朝鮮本17種、唐本1種、江戸初期写本1種、計19種について行った。以下、その概要を述べるが、記載は、書名（内題）・巻冊数・架蔵番号・刊写序跋年代等・法量（タテ×ヨコ・単位cm）・辺・界・行数（毎半葉）・字数（毎行）・版式等・印記（「帝国図書館蔵」印は略）・備考の順である。

* * *
魯齋全書／3巻（第4～7巻欠）1冊（217-124）
明・正徳戊寅〔13年(1518)〕秋8月6日序刊本・
31.0×19.3・四周単辺・有界・10行20字・朝鮮古
刊本（整版）・「御本」「弘」（朱）

入学図説／不分巻1冊（辰-12）・洪武30年〔1397〕
丁丑2月初跋刊本・23.8×17.0・四周双辺・有界・
13行24字・朝鮮古刊本（整版）・「御本」「□□
堂□□」「要齋珍藏」「弘」（朱）・帯図本、刻
工等の氏名を記した刊記あり。細野要齋旧蔵本。
一部破損、継ぎ紙をもって補写。

礼記集説大全／30巻8冊（辰-13）・嘉靖庚申蔵
〔39年(1560)〕孟冬月安正堂刊・23.3×14.2・四
周双辺（一部単辺）・有界・11行21字・明刊（整
版）・「御本」「要齋珍藏」

儀礼注疏／17巻10冊（17冊本を一部合綴）・（217-
120）・刊年不明・33.2×21.5・四周双辺・有界・
10行17字・朝鮮古活字版・「御本」「弘」（朱）

中庸或問／不分巻2冊・（106-167）・江戸初期写
（活字版罫紙使用）・26.1×18.6・四周双辺・有
界・7行17字・「御本」「弘」（墨）「要齋珍藏」

欧蘇手簡 1冊・（WA36-5）・刊年不明・33.9×
19.5・四周単辺・有界・10行19字・朝鮮古刊本
（整版）・「御本」「弘」（墨）

魏鄭公諫録／5巻2冊・（217-123）・正徳2年
〔1507〕序・淳熙己亥〔6年(1179)〕跋刊本・30.9
×21.0・四周双辺・有界・10行17字・朝鮮古活字
版・「御本」「弘」（墨）

家礼大全／4巻1冊・（WA36-8）・嘉靖癸亥
〔42年(1563)〕谷城県開刊・36.0×22.3・朝鮮古
刊本（整版）・「御本」「弘」（朱）・帯図本

文章軌範／7巻2冊・（242-8）・刊年不明・27.5
×18.9・四周単辺・有界・9行17字・朝鮮古刊本
（整版）・「駟字閣□□」「御本」「弘」（朱）
「要齋珍藏」・外題 松平君山筆

近思録／14巻4冊・（WA36-4）・正徳己卯〔14
年(1519)〕夏・風城精舍刊・32.8×21.7・四周双辺・
有界・9行18字・朝鮮古活字版・「御本」「弘」（朱）

* * *
延平答問／2冊・（WA36-3）・嘉靖丙寅〔45年
（1566）〕春・順天府刊・31.4×18.3・四周双辺・
有界・9行16字・朝鮮古刊本（整版）・「御本」
「弘」（朱）・外題 松平君山筆

淵源録／14巻4冊・（217-122）・弘治丙辰〔9年
（1496）〕序刊本・30.8×21.6・四周双辺・有界
11行21字 朝鮮古刊本（製版）・「御本」「弘」（朱）
外題 松平君山筆・刻工名を記した刊記あり

朱文公校昌黎先生集／40巻外集10巻・14冊外集1冊
（242-6）・刊年不明・32.5×21.0・四周双辺・
有界・10行18字・朝鮮古刊本（整版）・「御本」
「弘」（墨）

李太白全集／不分巻1冊・（217-126）・刊年不明・
33.7×20.9・四周双辺・有界・10行18字・朝鮮古
活字版・「御本」「弘」（墨）・題簽松平君山筆
分類補注李太白詩／※25巻9冊・（217-118）・刊年
不明

※「李太白全集」を巻1として構成したため巻2～
25。以下、「李太白全集」に同じ。ただし「弘」印
は欠。

小学集成／10巻図1巻6冊・（WA36-9）・正統
元年〔1436〕鑄字跋。見返しに「隆慶3年〔1569〕
3月□日 内賜兵曹判書鄭大年何氏小学一件命除
謝恩 右承旨 臣金□（慶カ）」と墨書。

37.0×21.8・四周双辺・有界・9行18字・朝鮮古
活版・「宣賜之記」「御本」「弘」

孟子大全／7巻2冊・（242-4）・刊年不明・30.8
×19.7・四周単辺・有界・8行16字・朝鮮古刊本
（整版）・「御本」「弘」（墨）

中庸集略／2巻2冊・（217-121）・嘉靖25年〔1546〕
跋刊本 見返しに「嘉靖21年12月」と墨書・30.6
×18.8・四周単辺・有界・8行18字・朝鮮古刊本
（整版）「宣賜之記」「細野蔵書之印」

三韻通考／不分巻1冊・（217-125）・刊年不明・30.5
×20.1・四周双辺（一部単辺）・有界・9行14字・
朝鮮古刊本（整版）「要齋珍藏」見返しに忠陳（要齋）
識語貼付 以上

* * *
▶19種の内、「孟子大全」まで17種は蓬左文庫旧蔵書であることを認定。「中庸集略」「三韻通考」の2種は尾張藩士細野忠陳（要齋）の旧蔵であり、これについては『感興漫筆』（『名古屋叢書』19～22）にくわしい。なお、調査本の内、6種が要齋旧蔵本であった。次号で考察を加えたいと思う。

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊)	3,500円	日本の古典<蓬左文庫図録>(S.52年刊)	200円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊)	4,000円	蓬左文庫・源氏物語図録(S.53年刊)	300円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(S.51年刊)	2,500円	蓬左文庫所蔵古地図複製(S.55~56年刊)	
尾崎久弥コレクション目録第一~三集 (S.52~55年刊)	各 1,500円	No.1~No.8	各 1,800円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊)	2,000円	No.9(尾張志付図)知多郡	1,800円
名古屋叢書続編 索引(S.47年刊)	700円	名古屋叢書三編第12巻(S.56年刊)	3,000円
名古屋叢書続編総目録(S.44年刊)	400円	同 第8巻(近刊)	
善本解題図録第一~三集(S.55年再版)	各 300円	張州年中行事鈔他二編	3,000円
蓬左文庫重要文化財図録(S.52年刊)	200円	同 第16巻(近刊)	
		横井也有全集上	3,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

★本文庫所蔵古地図の精密な複製を作成し、希望者には頒布しています。

★「名古屋叢書三編」(20巻・付1巻予定)の第1回配本を頒布中です。ただ今、第2・3回配本を準備していますが、昭和57年4月頃頒布いたします。

▷▷▷ 利用ご案内 ◁◁◁

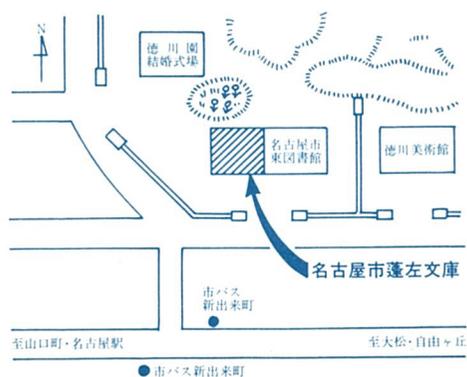
- ▷開館時間 午前9時30分~午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
- 祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 " 月・火休館
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部100円)
- ▷展示 常時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち保存上影響のないものについて複写サービスを行いません。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(市バス 新出来町 北 100m)
山口町 東 500m)



「蓬左」第10号 ☆昭和57年4月6日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷(東区泉2-3-18)